

多摩川流域リバーミュージアム (TRM)

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所 河川環境課

1. はじめに

多摩川は、巨大都市東京、神奈川を流下する河川で、流域には、400万人を越える多くの人々が暮らしています。

洪水から町を守り、水道水の供給など人々の暮らしを支える重要な役割を多摩川は果たしています。

多摩川には、まだ多くの自然が残り、生物にとって貴重な場となっているほか、公園グランドなどスポーツ・レクリエーションなどの場としても多くの人々に利用され都市における貴重な空間となっています。

近年では、さらに自然環境の保全、秩序ある利用、子供たちの自然体験の場として利用が望まれています。

このように自然環境が残り生活のうえで重要な役割を果たしている多摩川を大切に作る気持ちを育てるには、流域や川についてよく知ってもらうことが重要です。

多摩川流域では、より多くの人々に多摩川の持つ価値を認識してもらい、人と多摩川との良好な関係の創出を図っています

2. 多摩川の概要

多摩川は山梨県の笠取山に発し、東京都西部から南部、神奈川県との都県境を流れ、東京都大田区羽田で東京湾に注いでいます。

流域面積は1240km²で細長い羽状の形をしており、幹川の流路延長は138kmに達し、首都圏を流れる河川では勾配が急な河川です。

秩父多摩甲斐国立公園に指定された山間渓谷を流れ、山間渓谷を抜けると比較的広い河原を有し、都市の中に残る貴重な自然空間になっています。

下流の河川敷は、公園やグランド等としてスポーツ・レクリエーションなどの場として幅広く利用されています。

多摩川では高水敷の利用について様々な問題が発生したため、秩序のある利用と整備を図るために1980年に河川環境管理計画を策定しました

しかし、現在でも一部の市民が行っている良好な自然環境を壊すようなゴルフ練習やラジコン、サバイバルゲーム、モトクロスなどのための利用やゴミ

の不法投棄などが問題となっています。

3. 多摩川流域リバーミュージアム (TRM)

(1) 多摩川流域リバーミュージアムの目的

多摩川流域リバーミュージアムは、多摩川に対する理解不足から発生する環境や景観の破壊、利用者同士の採め事等を防ぐ上で、自然の実態、生態系、川にまつわる歴史や文化など、多摩川の持つ価値を広く啓発していくために、多摩川水系全体を博物館ととらえ、万人が多摩川の持つ価値を学習し、認識ができるようにするものです。

(2) 多摩川流域リバーミュージアムの概要

多摩川流域リバーミュージアムは、多摩川水系と玉川上水などの関連地域を含む流域全体を一つの博物館として見立て、その自然的、歴史・文化的な価値を再発見し、共有化するための活動です。

広大な流域で多様な情報を伝達・交流するため、インターネットなどの情報システムを活用すると共に、地域の特徴に応じた市民(団体)、自治体、河川管理者などの協働による活動と維持・運営を基本としています。

多摩川流域リバーミュージアムでは3つの大きな柱からなる取り組みを試行しています。

①多摩川を学習や活動のフィールドに

市民団体や学校などが行う河川観察会、自然学習や文化芸術活動などにおいて、講師の派遣や活動プログラムの相談などの支援をします。

②多摩川をもっともっと触れあいたい

「岸辺の散策路」「川の一里塚」「水辺の楽校」などの河川ふれあい施設や市民と協働で運営する市民活動拠点を整備します。

③多摩川をもっと知りたい知らせたい

自然・歴史・文化・防災などの情報を地域の情報拠点や携帯・パソコンなどによって収集することができます。

URL <http://www.tamariver.net>

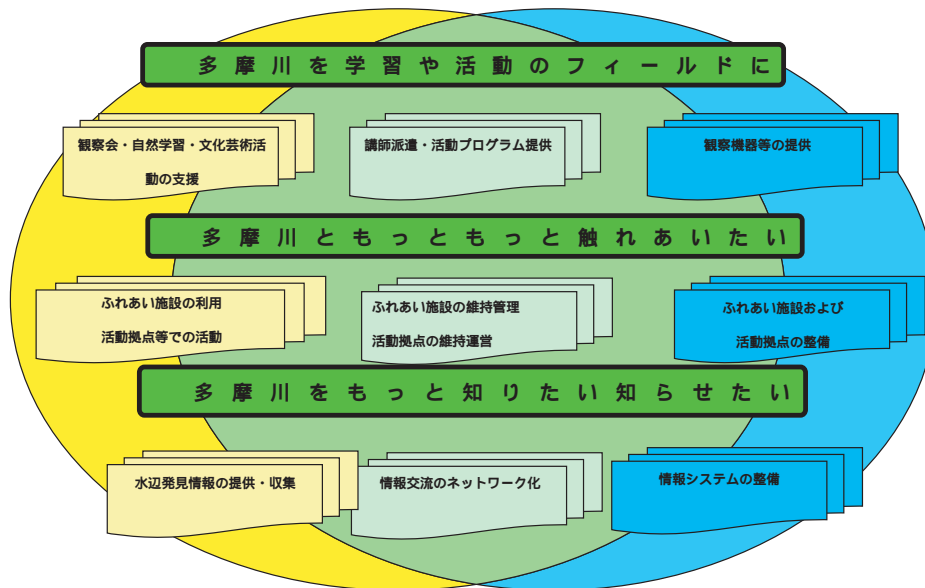
(3) 多摩川流域リバーミュージアムの展開方策

■パートナーシップによる維持運営

TRMは、市民、企業、自治体、河川管理者などの協働による維持運営を基本とする。

市民の取組み

行政の取組み



- ・流域全体レベルの維持運営体制づくり
- ・地域レベルの維持運営体制づくり

■地区情報拠点の設置

現地での情報収集・提供、市民（団体）の活動の拠点となる情報拠点及びT R M全体のセンター機能をもつ拠点を設置する。

■地域での活動をネットワーク化

多摩川流域における地域の活動を相互にネットワーク化（交流）することにより流域全体の価値を認識する。

■多摩川のもつ情報の収集・加工・発信・蓄積

地域ごとの自然・歴史・文化・防災などの情報についてパートナーシップの仕組みを活用し収集・発信する

■ふれあい施設の整備

多摩川の自然豊かな環境と人のふれあいを増進するため、「岸辺の散策路」、「川の一里塚」、「水辺の楽校」等のふれあい施設を整備する

多摩川流域リバーミュージアムでは、流域全体をネットワークするために、各地区ごとに現地情報拠点（サテライト）を整備すると共に、情報を統括する多摩川情報センター（仮称）を構想しています。

・多摩川情報センターの構想

多摩川流域全体の情報収集・情報提供・交流、市民（団体）の活動支援と交流、防災情報収集・提供など、リバーミュージアム全体の統括的な役割を担い、現地情報拠点の支援も行ないます。

・現地情報拠点（サテライト）の構想

多摩川流域のなかでの活動圏域を考慮して地区分けをし各活動地区に、それぞれ情報収集・情報提供・

河で活動する市民（団体）の拠点をおきます。

現在、二ヶ領せせらぎ館（神奈川県川崎市）、志民館（東京都福生市）、かわせみ館（東京都日野市）で活動を行っています。



二ヶ領せせらぎ館



志民館



かわせみ館

TRM活動の案内と紹介 - 総合案内サイト - [Go](#)

trm(多摩川流域リバーミュージアム)の
主な活動についてご紹介します

メニューを選択して下さい。

スタジオ多摩川 - 情報交流サイト - [Go](#)

市民との情報交流、多摩川で発見した
情報の登録など、リアルタイムの情報交流サイト

メニューを選択して下さい。

多摩川情報館 - 地域情報サイト - [Go](#)

多摩川と流域の自然・歴史文化情報
をお届けする地域情報サイト

メニューを選択して下さい。

河川管理情報 - 河川情報サイト - [Go](#)

多摩川の本日の流れや過去の洪水などを
お伝えする河川情報サイト

メニューを選択して下さい。

[サイトマップ](#) [リンク集](#)

あなたは 人目の訪問者です。

トピックス

- NEW** 「多摩川流域情報」を更新しました。 2006/3/31
- NEW** とどろき水辺の楽校「魚らん川復活 & 野草のテンプラを楽しもう」 2006/3/28
- NEW** 「ニヶ領河川情報表示板イベント紹介」を更新致しました。 2006/3/27
- ◆ 狛江水辺の楽校・第4回「春のマルタまつり」 2006/3/16
- ◆ 連続講座『多摩川の達人になろう!』の第11回を開催しました! 2006/3/7
- ◆ とどろき水辺の楽校「夢ワカメワークショップ」 2006/2/15
- ◆ あきしま水辺の楽校「ヨシで作ろう!立体凧」 2006/2/6
- ◆ とどろき水辺の楽校「新春海苔作りと屋形船河ロクルーズ」 2006/1/20

[過去のトピックスはこちら](#)

おすすめコーナー

下のボタンに矢印を合わせるとここに説明が表示されます。

[TRM試行運用意見箱](#)

[多摩川活動カレンダー](#)

[ライブ映像](#)

[多摩川談話室\(自由投稿\)](#)

[多摩川電子図書館](#)

[多摩川の作品募集コーナー](#)

[質問・相談コーナー](#)

[市民水辺再発見情報](#)

問い合わせ先

多摩川流域リバーミュージアム事務局
(財団法人河川情報センター広報事業部)
tel: 03-3239-8447
e-mail: tamariver@river.or.jp

国土交通省京浜河川事務所 河川環境課
tel: 045-503-4011

TRMのホームページ画面

(4) 多摩川流域リバーミュージアムの主な活動内容

① 情報収集と提供活動

多摩川流域リバーミュージアムでは、流域の情報や河川環境の詳細情報などをインターネット、携帯電話(i-mode)等により家庭・学校や多摩川の現地にお届けします。

■ ホームページによる情報提供

- ・多摩川流域リバーミュージアムの目的、活動内容、参加利用方法等を紹介しています。
- ・多摩川流域の概要、多摩川本川の自然、歴史・文化などの、多摩川に関する様々な情報を提供してい

ます。電子図書館では、多摩川の生き物や水質など、知りたい情報を調べることができます。

- ・現地情報拠点及び多摩川流域リバーミュージアムホームページより、リアルタイム映像を提供しています。
- ・活動地区における情報はより詳細な形に整理し、現地ガイドなどとしての活用を目指しています。
- ・携帯電話(i-mode)でもインターネットと同様の情報を得られます。そのため、河川にいながらにして多摩川の情報が得られることができます。

■ 地区詳細情報の収集

・地域の詳細な情報を提供するために、地域の自然環境、歴史・文化などの情報収集を行なっています。

・情報の収集は、活動地区の市民と共同で行っていきます。

■河川環境ガイドマップと現地ガイド

・収集した情報から、特徴的なものを地図と解説に整理し、地区ごとの河川環境ガイドマップを作成していきます。作成した地図と解説は、現地情報拠点(サテライト)での現地ガイドに活用するとともに、ホームページでも公開していきます。



多摩川ガイドブック

②市民団体・学校への活動支援

市民団体や学校などが河川観察会、自然学習、文化芸術活動などを行なう場合に、依頼に応じて講師を派遣したり、活動プログラムの相談などの支援を行ないます。

学校での活動支援として先生がたを対象とした環境学習懇談会や環境学習プログラムの作成・支援を行っています。

■活動支援

活動プログラムの相談から現地調査、現地活動、活動の記録作成までの総合的な活動支援を実施しています。多摩川流域を舞台とした活動の実施を検討しているが、川での活動の基礎的な知識や適切な活動プログラムが分からないという方を支援します。また、活動のための機材の貸出も行っています。

多摩川流域リバーミュージアムでは支援活動を充実するためボランティアの講師・スタッフを登録・派遣するしくみを構築していきたいと考えています。

③スタッフ研修と人材バンクの構築

多摩川流域リバーミュージアムでは、活動支援を実施するために、フィールドに出て安全に、自然を観察し解説するためのスタッフを養成するための研修を実施しています。この目的を基本にさらに次の事項に留意した研修プログラムを提供しています。

・多摩川と流域の治水・利水及び自然環境、歴史文化に関する知識の向上。

・安全に川での活動をするための事前準備、主催者側の安全対策及び救急救命等に関する知識・技術の習得。

・魚、鳥、植物及び歴史文化に関する現地でのプログラムの立て方、解説方法及び記録整理の方法等の向上。

■研修の内容

研修は、年度毎に計画をたてて実施し、各年度により内容は異なりますが、年間の研修を通じて、次のような内容を学習することを目指しています。

①多摩川の流域・水文特性

②多摩川の河川環境の特徴

③治水・利水の役割と歴史

④川での活動

⑤水辺の安全管理

また、室内講義とフィールド実習を組み合わせることにより、現場での活動に生かせる研修を目指しています。



スタッフの研修の様子

4. おわりに

今後、多摩川の良好な自然環境を保全・創出し、人々の憩いの場となるよう、多摩川流域リバーミュージアムを維持管理していくには、下記の課題を解決していく必要があります。

・多摩川に関心の薄い人々に対し多摩川の良さを知ってもらう

・地域での人材の育成及び拠点の確保と体制や仕組みづくりを行う

・ふれあい施設の継続的な維持管理体制の見直しを行う

・関連自治体及び市民のTRM活動の必要性を認識してもらい関心高める

・安全管理確保のための支援体制の構築を進める

・水系全体と地区レベル情報を共有するための仕組みづくりを進める